



## 加齢を喜びと感動の 人生に変える秘策

Kitaaooyama D Clinic

高齢社会の足音は大きくなるばかり。そんな時代に必要なことは、  
いかに加齢に伴う症状に打ち克つかうということだろう。

Photo Satoru Naitoh Text Ichiko Minatoya

阿保義久 東京大学医学部卒業。東京大学医学部第一外科、虎の門病院産科、三楽病院外科などを経て北青山Dクリニック院長。現在、日本外科学会、日本血管外科学会、日本抗加齢学会などに所属。

アンチエイジングという言葉は、  
イコール美容として語られることが  
ほとんど。しかし北青山Dクリニック  
の院長・阿保義久氏は健康、ひい  
ては生き方の問題として、アンチエ  
イジングを考えている。

「高齢社会の進行とともに、生き活  
きとした人生のために、医療として  
のアンチエイジングを提供する時代  
が来ています。命に関わらないもの  
はかまわない、という意識が医師に  
はありますが、その方が深くその症  
状に悩まれている、ストレスから健  
康を損ねるようならば、それはやは  
り治療対象と考えるべきです」

例えば下肢静脈瘤。文字通り瘤の  
ようなものがひざ周辺に現れ、見た  
目の異様さやひどいむくみ、時には  
痛みも伴うこの病気は、加齢とも  
に発病率・症状の進行度が高まるこ  
う。その症状に悩む人は非常に多  
く、背後に肺血栓塞栓症の恐れなど  
もあるものの、即座に命に関わるも  
のではないと、今までの医療機関で  
はその治療に積極的に関わるところ  
が少なかった。そんな状況の中で、  
阿保氏がクリニック開業以来積極的  
に取り組んできたのは、この下肢静  
脈瘤のレーザー治療だ。専門が腫瘍  
外科・血管外科である彼は、その専  
門医としての高い技術と経験を生か  
し、1500例以上の日帰り手術を  
手がけてきた。

「今まで主流であった下肢静脈瘤の  
手術は、何箇所もの切開を行い1週  
間前後の入院を余儀なくされるもの  
がほとんどでした。しかし近年飛躍  
的に進歩したレーザーを使うことで  
切開を最小限にとどめ、そのために  
麻酔も部分的で済むようになったの  
です。体に与えるダメージが少なく、  
施術当日に離院できますし、日学生

活への支障もありません」

阿保氏が始めた日帰り手術によっ  
て、今まで深く悩みながらも手術を  
ためらっていた人々が、気軽に治療  
を受けられるようになった。遠方か  
らクリニックを訪れる人の中には、  
検査・診断・手術を、すべて同じ日  
に済ませてしまう人も多い。そして  
その人々が異口同音に口にするのは、  
「あんなに悩んでいたのが、こんな  
に簡単に治せるなんて！」

という嬉しい驚きだとか。阿保氏  
自身、これほどに悩みは深く、また  
大勢の人々が苦しんでいることに、  
改めて驚いているという。

「これがあがるから温泉にも入れず、  
お友達が集まりに行けなかった」  
「スカートを穿けず、もうお洒落は  
出来ないと悲しんでいた」など、人  
生の楽しみを下肢静脈瘤のために諦  
めていたという方がとても多い。心  
身の健康は人生を楽しんでこそ  
こつたことから、アンチエイジ  
ングをもっと予防医療としてもとら  
えていく必要性を感じています」

現在はこうしたレーザーを使った  
下肢静脈瘤の治療を手がける医師も  
増えてきたが、その多くは足首に近  
いほうからレーザーを血管に入れ  
て手術を行っている。これに対し阿保  
氏は足の上、付け根のほうから入  
れる。こちらは前者より高度な技術  
を要求されるが、術後の傷口が目立  
ちにくい。専門医であり数多くの症  
例を成功させてきた阿保氏だからこ  
そできる、手術の負担感を軽減  
のひとつた。負担感を軽くすること  
で、治療へのハードルが低くなれば、  
より多くの人が悩みから解放される  
だろう。より豊かな人生を楽しむた  
めのアンチエイジング。阿保氏の考  
えはこれからのスタンダードになる。